



道連ニュース

2012年2月号 No.68

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

「生協への期待」を学び、コンプライアンス・ガバナンスを交流しました ～役員幹部職員研修会・税務経理講習会が24名で開催～

役員幹部職員研修会



2月3日、午前の役員幹部職員研修会にコープこうべ前理事の田中重至氏をお招きし、「コープこうべの21世紀ビジョン」を中心にお話しを

頂きました。田中氏は①中長期経営ビジョンの現状認識、②生協の位置と役割、③理念の浸透・生協意識の高揚などについて、賀川豊彦への熱い思いを交えて報告頂きました。

参加は8生協13名でしたが、2010年開催の賀川献身100年記念道集会を思い出すとともに、規模の違いを超えて頂くことの多い研修となりました。

並行して税務経理講習会が、昨年に引き続いてMMコンサルティングの三宅充氏を講師に開催されまし

た。三宅氏は①税制改正の主な内容、②税務調査の対応と心構えなどについて事例を交えて報告して頂きました。

参加は5生協11名でしたが、年度決算を控えて参考になることの多い講習となりました。

午後は合同のメンバーで「生協のコンプライアンスとガバナンス」と題して、「生協のガバナンスと理事・監事の役割」（通信教育テキスト）を参考に基調報告があり、その後に参加生協からの事例報告の交流となりました。コープこうべからは「コンプライアンス自主行動指針、

道連前川専務からは道労金の「理事・監事コンプライアンス研修」の概要が紹介されました。



午後の合同研修会

福祉活動交流会を開催 ～2008年にスタート・生協間の交流が活発に～

1月26日、当会は2011年度福祉活動交流会を5生協11名の参加で開催しました。この交流会は2008年に異業種生協間の福祉活動や福祉事業の情報交換の場として行われ4年目となり、現在では生協同士での活発な交流や連携、提携が積極的に行われています。

当日の議題は、①全国地域福祉交流会参加者報告と②各生協の報告と交流です。①では全国生協の地域福祉活動の促進・ネットワークの構築を目的に日生協が主催。概要は先進事例報告（福井県民生協・南医療生協等）、パネルディスカッション。②では介護施設デイこたけや基金、新設葬儀福祉事業（生活クラブ）、

ホームヘルパー養成講座4月開講（道労済）、子育てサロンや助け合いの会、おげんき会活動（道医療）、3番目のサービス付き高齢者向け住宅11月開設（さっぽろ高齢者福祉）、CSRと地域関連事業や子育て支援、震災支援活動（コープさっぽろ）など取り組み状況の報告と意見交流がありました。



～全国一斉・さようなら原発1000万人アクションIN北海道に参加～

2月18日(土)、「全国一斉・さようなら原発1000万人アクションIN北海道」集会が行なわれ、当連合会の麻田信二会長理事と、脚本家倉本聰さん、作家雨宮処凛さん、北海道大学教授小野有五さん、国立北海道がんセンター院長西尾正道さんが呼びかけ人

です。集会では麻田会長も『呼びかけ人挨拶』をし、札幌市内のデモ行進に参加され脱原発や持続可能なエネルギー政策などを訴えられました。

*道連HPに麻田会長理事の集会でのメッセージを掲載していますので、ご覧下さい。

臨時総会終わる

12月12日(月)に平成23年度中札内生協の臨時総会を開催しました。この臨時総会は、事業運営が厳しさを増す中、地域のお店として生き残りをかけるために、今後について組合員の皆様から貴重なご意見を頂くことと、抜本的な対策としてコープさっぽろ様に業務支援をお願いしていくことの是非を問うためのものでした。

提案としては、コープさっぽろの業務支援が実現したとしても、それだけで事業運営が好転するというものではなく、様々な取り組みをしていかなければ根本的な改善とはならないことを説明させて頂きました。

組合員の皆様からは、今後に対する不安と期待の入

り混じったご意見を頂きましたが、採決の結果、賛成多数でコープさっぽろ様に業務支援をお願いしていくことで承認されました。

まだまだ先行きが不透明ではありますが、経営再建へ向け組合員と役職員が一丸となり取り組んで参りませ



コープさっぽろへの業務支援を承認した臨時総会

生活クラブ生協

自分らしいお葬式のために『お葬式っていくらかかるの?』 ～生活クラブの葬儀について一緒に学びませんか～



生活クラブの葬儀を学びあった50人の組合員が参加し、生活クラブの葬儀を学習しました。「SOGIサポーターズ」のメンバー3人が講師となり、お葬式の有り方や、実際の生活クラブでのお葬式、生前相談の受け方、ワーカーズ料理の紹介、費用面など、実際の例などを交えながら説明を行いました。

生活クラブの葬儀の特徴は、費用が明確なことから、「SOGIサポーターズ」の存在や生活クラブの消費

2月4日(土)、札幌エルプラザにて葬儀学習会が開催されました。当日は組合員約50名

材を使ったワーカーズ料理、エコロジー棺の利用をすすめていることです。

「SOGIサポーターズ」とは、生前相談から実際の葬儀まで組合員に寄り添う形でサポートする、組合員からなる葬儀のサポーターです。その人らしい葬儀を行うために、事前に相談を受けながら組合員とともに葬儀を考えていくのが、生活クラブの葬儀の大きな特徴とも言えます。葬儀で使用する棺桶は、燃焼効率など環境に配慮したエコロジー棺で、これも生活クラブのこだわりの一つとなっています。また当日の会場では焼海苔やハンカチなどの生活クラブオリジナル消費材の返礼品も展示され、参加された方は手にとって実物を確認していました。生活クラブらしい葬儀の一端が確認できた一日でした。

コープさっぽろ

北海道の未来の森づくりを目指して!

～北海道の森づくり交流会～

コープ未来の森づくり基金では1月28日、「第2回北海道森づくり交流会」を開催しました。2回目となるこの交流会は全道をTV会議で結び、180名の参加をいただきました。

第1部では精神科カウンセラーであり、森林をテーマにした活動・著作で知られる浜田久美子さんをお招きした特別講演と助成団体による報告会。第2部では各会場にて「地域の森づくりを考える」をテーマに交流が持たれました。

特別講演では、森に触れたことで自らが癒されたことから森づくり活動に関わったという経験談に始まり、長野での暮らしを通じての森とのつながりのお話。そして、スウェーデンやドイツなどの森づくりと暮らしをつないだ事例を紹介していただきました。日本以上に森とのつながり、活用が進むヨーロッパの話は興

味深いものでした。

助成団体による報告では、人の営みによって失われた森を回復する活動報告など、「森と人」との関係性をいっそう考えさせられました。

第2部では森づくり団体と市民が「こんな森づくりをしたい」と想いを寄せ合いました。市民が森づくりに参加するには?どんな森が欲しい?など、ごく普通の市民が森づくりに関わるきっかけになったと思います。



森づくりをすすめる助成団体のみなさん(写真右上が講演をされた作家浜田久美子さん)